

宮崎学園新聞

2025年
第五号宮崎学園
高等学校
新聞部

女子サッカー九州大会出場

一丸となり優勝掴む

宮崎県高等学校総合体育大会サッカー競技大会が五月二十五日(日)・二十八日(水)・三十一日(土)に都農町藤見陸上技場で行われた。



▲賞状を受け取る様子



▲相手選手とボールを奪い合う



▲声援を送る人々

宮崎学園高校は二十八日に行われた準決勝で妻高等学校と対戦。この大会は一年生にとっては初の大会だったが、一年生の黒木美結選手、吹上叶花選手が一点、岡野夏稀選手が二点を得点。負けじと上級生の選手も得点を重ねた。中でも二年生の矢野百笑選手、小田唯夏選手は各四点を奪い、勝利に大きく貢献した。結果は十五対〇で宮崎学園が勝利し、決勝戦へ進んだ。

三十一日に行われた決勝戦では聖ドミニコ学園と対戦。試合開始直後は聖ドミニコ学園の選手が守備を固め、宮崎学園の選手はなかなか攻めきることができなかった。しかし前半十四分で、三年生の倉田悠愛選手の決めた一点でチーム全体の雰囲気が大きく変わった。同じく三年生の村田愛桜選手のポジジョン、右サイドを攻撃の起点として点を重ね優勝。見事四対一で九州大会へ出場することが決まった。

九州大会は六月二十一日から二十三日にかけて長崎県島原市で行われる。部長である田中姓李選手は、「試合を通して複数得点できたものの、試合の入り方がうまくいかなかったことや、集中力が持たずに失点してしまうなどの課題が見つかった。これらの課題を改善し、九州大会では最高のパフォーマンスで全国大会へ一位突破したいと思う。」と語っていた。(中島)

学年を超えて力を発揮

硬式テニス部

五月二日から五月二三日までの三日間、硬式テニスの宮崎県高等学校総合体育大会が生目の杜運動公園テニスコート、潭武総合公園、サンスポーツランド高岡の三か所で行われた。男子は団体戦、一試合目の相手は鵬翔高校。結果は二対一で宮崎学園の勝利となった。続く対戦相手は、インターハイなどで好成績を収めている大宮高校。結果は惜しくも〇対三で大宮高校の勝利となった。

女子団体戦は、妻高校と二対一という僅差で妻高校の勝利となった。シングルスでは二年の平井